



舞鶴市議会最年少議員

鴨田あまつ通信

後援会だより Vol.08

発行/鴨田あまつ後援会
舞鶴市字境谷158
TEL0773-75-0800
mail k.akitsu3@gmail.com

新たなリーダーと国の課題

我が国では、令和2年9月16日に菅内閣が発足しました。

2012年12月26日の第2次内閣発足以降、安倍晋三首相の連続在任日数は2822日で幕を閉じ、第1次政権を含む通算在任日数は3188日でいずれも憲政史上最長となりました。

この間を振り返りますと、アベノミクスを中心とした経済政策、米国を中心とした外交政策、安保法(集団的自衛権の行使容認)、公職選挙法(選挙権18歳)、働き方改革関連法、東京五輪の開催、新元号(令和)の決定など、数えきれぬ決断と改革が評価された一方で、自衛隊日報隠匿問題、森友加計問題、桜を見る会などの疑惑に批判が集中したところです。

コロナ禍で益々遠のく日本経済の発展、経済困難に直面する人々の救済、人口減少等の国家的課題、中国の脅威など、多くの課題が山積する状況下で、菅総理がどのような日本を目指すのか。地方から注視し、そして地方の声を上げていきたいと思えます。

本市においては、新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、様々な事業や催しが中止されてきましたが、文化芸術活動やスポーツ大会等が少しずつ再開されてきております。感染拡大に配慮しながらできる方法を模索する。オンライン会議やリモートワークなど、コロナをきっかけとして急激に定番化しました。人は困難に直面しても、成長し対応していきます。「やめる」選択は簡単です。しかしながら困難に直面した時に「やめる」結論を出す前に、どうすればいいか。そのために自分は何かできるか。そういう思考を持ち続けたいと思えます。



2020年10月吉日 鴨田 秋津

令和2年
9月定例会

放置竹林問題や農業振興について質問!

・地域の課題と活性化について

- (1) 放置竹林について
- (2) 特色ある農作物について
- (3) 移住定住促進について



(1)について 皆さん、ご存じでしょうか。

舞鶴市は放置竹林面積が京都府内でナンバー1、増え続ける放置竹林が問題です。「京都」の竹と言えば、一般的に南部をイメージされると思いますが、実は圧倒的に北部に集中しています。府全体で約5,500ヘクタールと言われている中、舞鶴市は約1,350ヘクタールと断トツであります。この数字は府内竹林面積の25%を舞鶴が占めており、全国の自治体でもトップクラスと言われています。深刻な放置竹林問題に対する市の考え。

また伐採した竹をどう利活用し、ビジネス化していくか等を質問しました。

(2)については、舞鶴は海・山・川など自然に囲まれており、その恵みを受けて育った多様な農林水産物を最大限に活かし、魅力ある一次産業を創出することは、舞鶴の発展に必須であると私は考えています。その中で、農作物のブランド化やコロナ禍における販路拡大などについて質問しました。

(3)については、人口減少がとまらない本市において移住定住政策に重点を置くことは必須であり、昨年は15組37名の方の移住者がありました。しかし移住者の人数のみをピックアップすることは本質ではなく、市外から人が入ることによる新たなネットワークの形成や、地域コミュニティの活性化が大事であると私は考えます。また新型コロナを機に、都市部から地方への移住に関心を持つ人が増えております。移住定住施策に対する市の意気込みや、空き家特区に指定されている3地区(加佐・大浦・池内)の空き家バンクの課題等について質問しました。

(1)については、放置竹林は課題として認識していること、竹の利活用についてはメンマへの加工など竹の利活用を研究し、ビジネス化を目指してほしいとの回答。(2)については、万願寺あまとう以外にも本市の気候、風土に適した野菜などのブランド化を検討していきたい、また販路拡大は、ICT技術を活用した販路開拓を進める必要性を認識するとの回答。(3)については、地方回帰を追い風として、更に移住定住政策を押し進めると回答、特区の空き家バンク制度については、バンクへの登録が進んでいないと認識し、市職員や移住サポーターの皆さんとともに制度の周知やきめ細かい対応に取り組むとの答弁でした。

質問の動画は
ユーチューブ
YouTubeで
いつでも閲覧できます

コロナ対策に係る補正予算など27議案を審議

今定例会では第60号議案から第86号議案までを審議しました。

一般会計補正予算関連について

=新型コロナ感染症対策に係る施設整備ついて=

国の財源等を活用して、西駅交流センター(西側1~3階)と総合文化会館のトイレ洋式化等のユニバーサル化や手洗いカウンターを非接触化等に改修するほか、ふるるファームや大庄家上野家、漁村活性化センターの機能強化に対する予算計上です。

=地域エネルギービジョン策定事業ついて=

公共施設への再エネの導入、分散型のエネルギー供給拠点の形成などの目標を定め、向こう10年間の間に取り組むべき具体的で実現可能なエネルギービジョンを策定する経費で、約2,200万円が計上されました。

第80議案(舞鶴市廃棄物の減量化及び適正処理等に関する条例の一部を改正する条例制定)に反対!

この条例が改正されるとどうなるか。令和3年7月から、①可燃ごみの指定袋の値上げ②新たに一部資源ごみの指定袋制による有料化③現在無料であるリサイクルプラザや清掃事務所への直接搬入の際に1回あたりで手数料を徴収する(清掃事務所200円、リサイクルプラザ400円)ということになります。

プラゴミ削減などの国の方針や、ゴミ処理にかかる経費(現在舞鶴市の最終処分場では約14億円、同様に第一清掃事務所についても約38億円を投じて工事をしています)を鑑みれば、値上げや有料化は一定理解できますが、反対した大きな理由は2点あります。

1点目は条例改正案の内容を本会議途中で市長が突然変更する旨示唆したこと。

2点目はごみ排出における利便性の向上が不明確であること。

詳しくはブログ(<https://kamoda.info/>)にしっかりと記載しておりますし、下記の討論で述べておりますので、是非お目を通していただければ幸いです。



廃止される公共拠点ボックス

とにかく制度設計も不十分かつ、市長が突然変更を示唆するような不明瞭な条例改正は論外です。しかしながらこの条例改正案は賛成多数(賛成18、反対7)で可決しました。賛成ありきとはまさにこのことです。

可決されてしまったものはひっくり返せません。今後は市が主催の住民説明会等で値上げや有料化について説明を行っていくとのことですので、私はもちろんですが、皆さんもしっかり注視していただきたいと思っております。

討論

討論は一般質問と同様に
ユーチューブ
YouTubeで
閲覧できます



鴨田秋津プロフィール 1981年11月11日生まれ(38歳)

【学歴】拓殖大学経済学部 卒 【趣味】柔道(5段)、魚釣り

【家族】妻・子ども3人(1男2女)

柔道教室で子ども達の指導をはじめ、各種団体に青少年育成活動等を行っています。



終わりに

夏から野菜作りを始めました!「team さすていなぶる」というチームで取り組んでいます。きっかけは今年の春に池内地区の方々から、増え続ける耕作放棄地や休耕地を再生して、若い人で田畑をやってみないか?という要望をチームとして受けました。(農村集落では、過疎化と高齢化が進んでおり、地域を再生したいという方々の想いを以前から伺っておりました)それで8月から「さすていなぶる農園」をスタート。まったくの素人ですので、地元の農家さんに講師になっていただいて、道具の使い方から、土づくり、畝の作り方など、基本中の基本を楽しく学びながら、有機栽培で挑戦しています。もちろん、ただ遊びでやるのが目的ではなく、農業の魅力発信や、農村集落への移住定住促進など、多角的にチームとして村のお手伝いができればと思っています。また子ども達のために、自然を活かした何かをできないか。模索しています。



【team さすていなぶる】

持続可能な開発目標(SDGs)の考えのもと、舞鶴において貧困や飢餓といった問題から、働きがいや経済成長など、21世紀の世界が抱える課題を包括的に解決すべく、市内の経営者や会社員、公務員などジャンルを問わず、20代から40代を中心に活動しています。

編集部
より
ひとこと

編集部のSです。ごみの値上げや有料化が決定されました。今回、鴨田の議会での発言を新聞各社が取り上げて下さいました。鴨田が言っていることはとてもまっとうだと思いましたが、皆さんはこの問題についてどう思いますか。

個人的には公共施設の拠点回収ボックスが無くなるのが困りものです。値上げや有料化ばかりではなく、ゴミ出しが不便にならないよう考えてほしいです。

地域の要望等、些細な事でも構いません。是非お気軽にご相談下さい!

TEL:0773-75-0800 mail:k.akitsu3@gmail.com

インターネットでは、日々の活動をより詳細に更新していきます。
ぜひご覧ください。

ウェブサイト



facebook



twitter



Instagram



KAMODAKITSU